

# タンク建設進捗状況

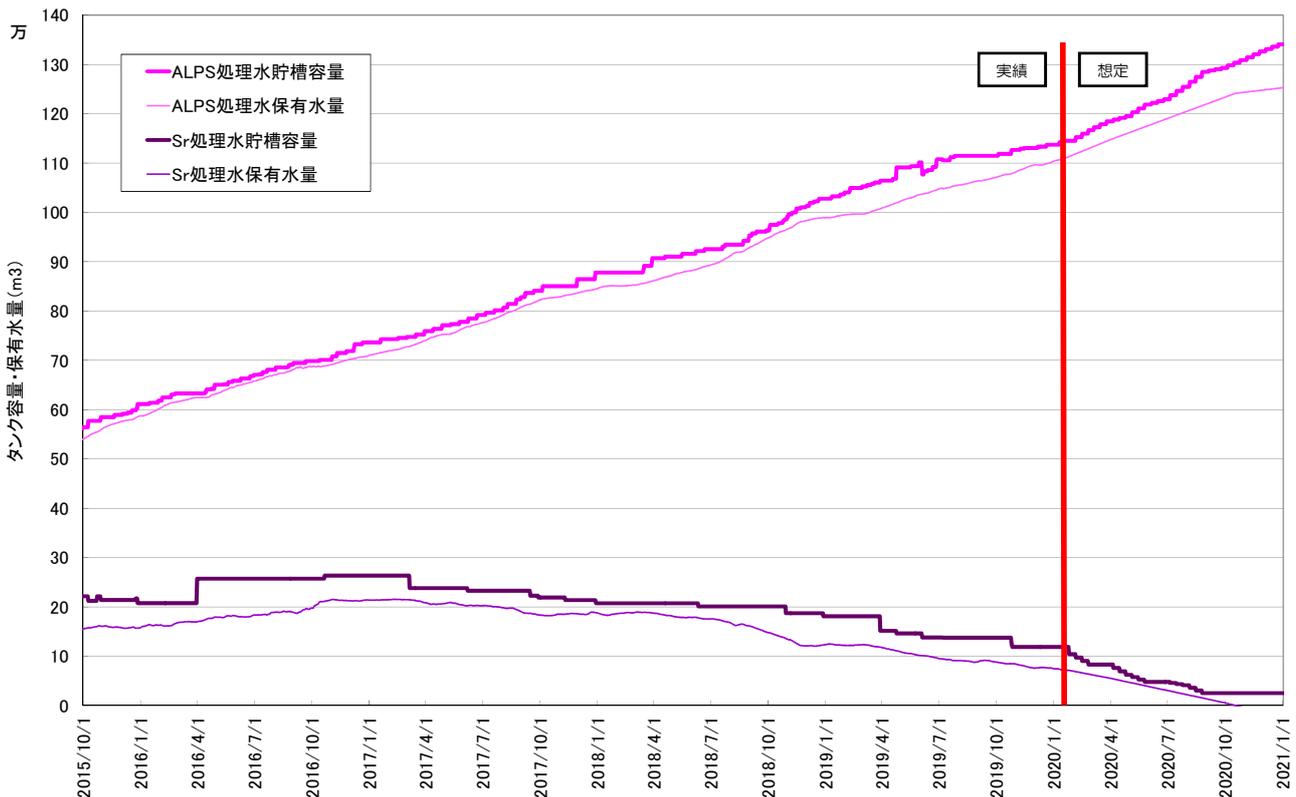
2020年2月27日



東京電力ホールディングス株式会社

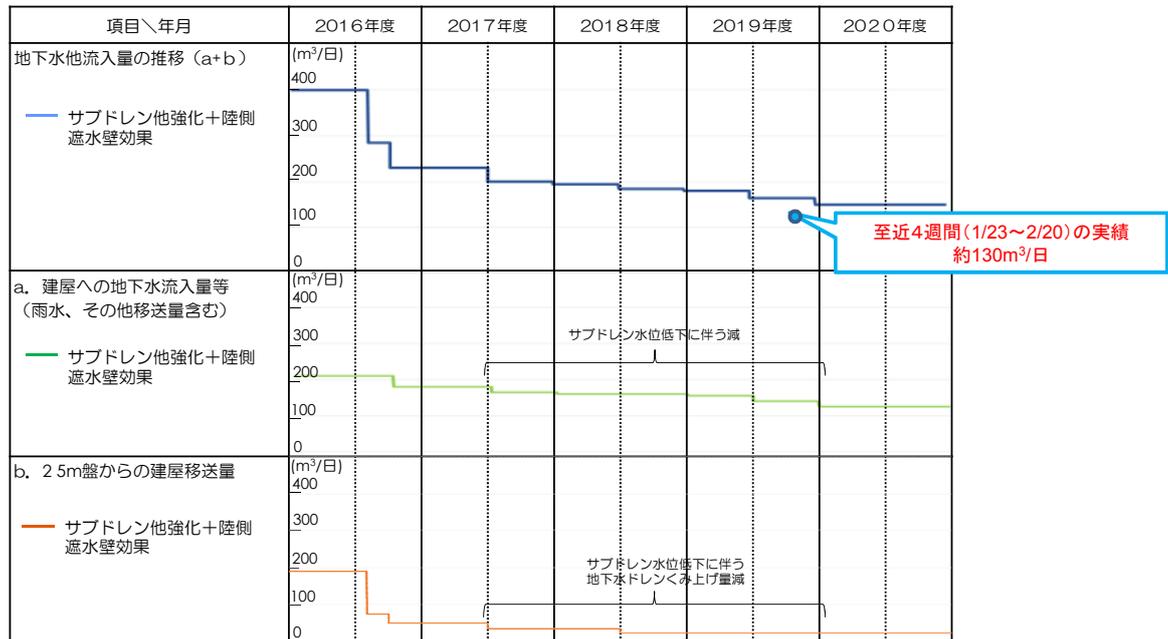
## 1-1. タンク容量と貯留水量の実績と想定

水バランスシミュレーション（サブドレン他強化+陸側遮水壁の効果）



水バランスシミュレーションの前提条件

➤ サブドレン+陸側遮水壁の効果を見込んだケース



2-1. 溶接タンク建設状況

タンクリプレースによる溶接タンク建設容量の計画と実績は以下の通り（～2020年3月）

溶接タンクの月別建設計画と実績

下線は計画 単位：千m<sup>3</sup>

| 年度   | 4月   | 5月   | 6月   | 7月   | 8月  | 9月  | 10月  | 11月  | 12月  | 1月   | 2月         | 3月          | 小計           |
|------|------|------|------|------|-----|-----|------|------|------|------|------------|-------------|--------------|
| 2018 | 4.8  | 10.5 | 23.7 | 13.9 | 3.6 | 8.7 | 19.4 | 14.4 | 15.2 | 12.7 | 12.3       | 11.0        | 150.2        |
| 2019 | 26.9 | 10.0 | 31.0 | 9.1  | 0   | 0   | 11.9 | 4.0  | 6.6  | 7.9  | <u>5.3</u> | <u>10.6</u> | <u>123.3</u> |

タンク容量の確保計画と実績（全体<sup>※1</sup>）

|        | 計画<br>(2020.12.31時点)  | 実績 <sup>※2</sup><br>(2020.2.20時点)                               | タンク容量確保目標<br>約600m <sup>3</sup> /日(約300m <sup>3</sup> /日 <sup>※3</sup> )<br>(2020/2/20～2020/12/31)<br>[建設・再利用合計] |
|--------|-----------------------|---|--|
| タンク総容量 | 約1,365千m <sup>3</sup> | 約1,176千m <sup>3</sup><br>(約1,273千m <sup>3</sup> <sup>※3</sup> ) |  |

※1：水位計0%以下の容量（約2千m<sup>3</sup>）及び日々の水処理に必要なSr処理水用タンク（約24.7千m<sup>3</sup>（既設置））を含む

※2：「福島第一原子力発電所における高濃度の放射性物質を含むたまり水の貯蔵及び処理の状況について（第440報）」にて計算

※3：Sr処理水用タンクからALPS処理水用タンクとして再利用する分（約97千m<sup>3</sup>（既設置））を含む

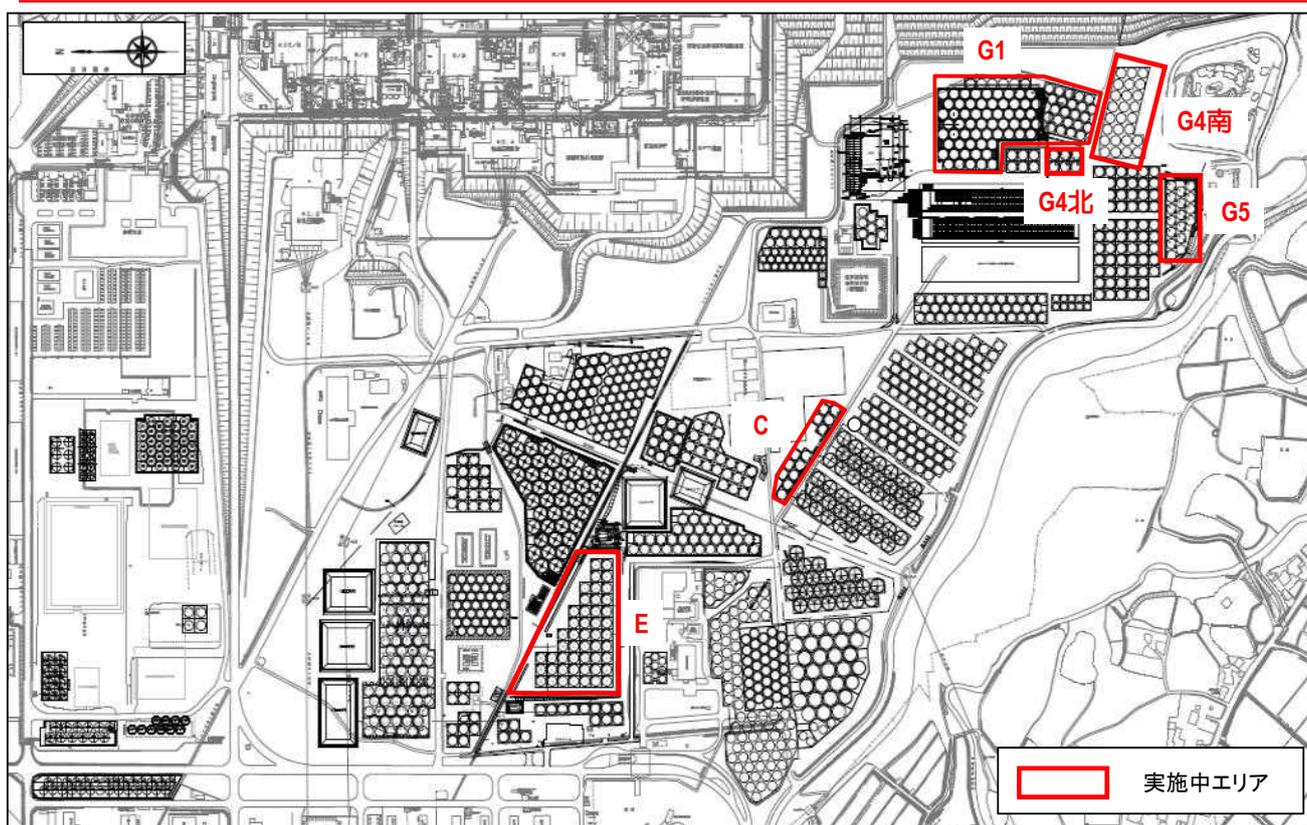
1. タンク建設・解体関係

| エリア    | 全体状況   |
|--------|--|
| C・E    | フランジタンクの解体作業中。   |
| G1     | 2019/2/27 鋼製横置きタンク撤去完了。<br>2019/4/1 溶接タンク設置開始。<br>2019/2/3 基礎構築完了<br>タンク設置実施中。                       |
| G4南    | 2018/9/13 フランジタンクの解体作業着手。<br>2019/3/21 フランジタンク解体・撤去完了。<br>2019/12/1 溶接タンク設置開始<br>地盤改良・基礎構築・タンク設置実施中。 |
| G4北・G5 | フランジタンクの解体作業準備中。   |

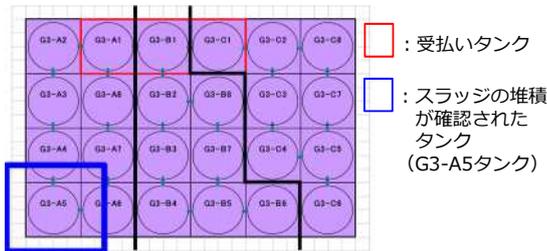
2. 実施計画申請関係

| エリア | 申請状況 |
|-----|------|
| —   | —    |

【参考】タンクエリア図



- 2018年10月に溶接型タンク（G3-E1）にて硫化水素を検出したことに伴い、ストロンチウム処理水（以下、Sr処理水）を貯留している溶接型タンク及び多核種除去設備等処理水（以下、ALPS処理水）を貯留している溶接型タンクについて、タンクの内面点検を進めています。  
<2019年4月25日お知らせ済み>
- 過去にRO濃縮塩水及びSr処理水を貯蔵した経歴があるALPS処理水タンクについては、水中ロボットによる内面点検の結果、スラッジの堆積により底面部的確認が出来ない状況であることを確認しました。  
<2019年10月31日お知らせ済み>
- 2月5日より、ALPS処理水を貯留している溶接型タンク※<sup>1</sup>の内面点検（水中ロボット使用）を開始したところ、同日、G3東エリアA5タンク※<sup>2</sup>底部においてスラッジの堆積を確認しました。
- 今後調査を進め、硫化水素発生や、タンクの健全性への影響等を確認してまいります。
- 調査の結果については今後お知らせしていきます。 ※<sup>1</sup> RO濃縮塩水及びSr処理水を貯蔵した経歴はなし  
 ※<sup>2</sup> 2013年度に受入れ（既設ALPSにて処理した水）



タンク配置図（G3東エリア（全24基））



【参考】同型タンク内面写真（水抜き後）



G3-A5タンク内面写真